# 山田のかかし笑劇団

## 魂ゆさぶる偉人たちの物語

# 「サマイ物語」

激動の明治時代、命も惜しまず困難に立ち向かった偉人たちの功績を劇にして、伝承活動を続けている「山田のかかし笑劇団」を知っていますか。今回は、伝承劇の内容や世代間交流、地域間交流にスポットを当て、その取り組みの全てを紹介します。

◎問い合わせ　秘書広報課　☎23－3174

### 劇団の立ち上げ

山田のかかし笑劇団（劇団）は、代表の岩邉八郎さんや事務局の瀬之口ヤス子さんらが、平成23年に立ち上げた市民劇団です。

現在、22人が在籍。笑顔一杯の団員が楽しみながら、伝承活動に取り組み、ボランティアで公演を続けています。

### 感動の物語「サマイ物語」の完成

平成28年度、市の地域振興基金を活用して、音響や照明などの舞台設備をそろえる一方で、庄内・山田・志和池地区の開田事業で功績を残した3人の偉人「坂元源兵衛」「前田正名」「石川理紀之助」を描いた90分の長編作品を制作。3人の頭文字をとって「サマイ物語」と名付けられたこの作品は、今年の3月5日に山田総合センターで初披露され、詰め掛けた約300人からは鳴りやまない拍手が寄せられました。

以来、市内の小・中学校を中心にボランティアで公演を続け、未来の地域の担い手である子どもたちに、偉人たちの感動の物語を伝えています。

## 物語の舞台

明治時代の中頃、関之尾滝からボラやシラス中心の荒れた土地であった山田町谷頭に水を引いて米を作り、住民たちが豊かな暮らしができるようにと、壮大な夢を描いた源兵衛翁と正名翁は、数々の困難を克服しながら、全長13・7キロにも及ぶ「前田用水路」を完成させました。

しかし、用水路が整備されても、村人たちは米作りの知識がなく、悩んだ正名翁は、尊敬する友人で、秋田（現在の潟上市）の農業指導者であった理紀之助翁に、村の救済を求めました。

# 郷土の礎を築いた 3人の偉人

## 事業に奮闘した源兵衛翁と正名翁

水田がなかった当時の関之尾地区の人々は、土木技術力を買われ庄内に移住した源兵衛翁に用水路敷設の夢を託し、明治20年から工事が始まります。源兵衛翁は、ノミと金づちだけで硬い岩山を掘り、「人間の意思が固いか、この石が硬いか」と不撓不屈の精神で関之尾滝上流から長い年月をかけて隧道を掘り抜きました。

さらに谷頭へと工事を進めていた源兵衛翁でしたが、資金が底を尽き行き詰まっていた時、農業振興のため開田事業に乗り出していた正名翁に、水路の権利を譲渡。正名翁は、ボラとシラス台地に悪戦苦闘しながらも、谷頭までの用水路を、1年で完成間近までこぎつけます。

しかし、新たな用水路工事で失敗し中断。そこで昔ながらの伝統技術を持つ源兵衛翁に工事を任せる事で、明治34年に前田用水路が完成しました。

## 農民教育に奮闘した理紀之助翁

用水路を完成させた正名翁は、村人の生活を豊かにするため、秋田の理紀之助翁に救済を要請。理紀之助翁は、同志7人と共にボランティアで谷頭を訪れたのです。

理紀之助翁らは、農民らに農業技術を教える傍ら、夜学会を開催。読み書きやそろばん、礼儀作法を教え、人としての生き方を説きます。誠心誠意、農民らと向き合うことで徐々に信頼され、わずか6カ月という短い期間で、農民らの意識を変えることに成功。現在の豊かな谷頭の礎を築きました。

**インタビュー**

坂元源兵衛翁の曾孫

**坂元 徳郎さん**（庄内町）

用水路敷設にも携わった祖父英俊から聞いた話ですが、曽祖父源兵衛はとても穏やかな人で、水田の造成や堤防の復旧などに尽力し、地元からの信望も厚かったと聞いています。

温厚な源兵衛でしたが、仕事に対するこだわりはとても強く、用水路の工法を巡っては、他の技術者などと大ゲンカをしたこともあったそうです。用水路の完成後は、公職には就かず、水車小屋を作り地元の米つき（精米）も手伝うなど、最後まで地域のために尽力したようです。

**インタビュー**

石川理紀之助翁に学んだ夜学生竹森重二さんの子

**竹森 和昭さん**（山田町中霧島）

父は、理紀之助翁らから、昼は農作業や竹細工などの手ほどきを受け、夜は勉強を教わった夜学生でした。直接、父から翁のことを聞いた事はありませんが、常々「辛抱しなさい」と口にしていたことから、翁の教えを心に止めていたと思います。

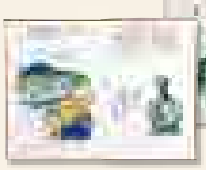
現在、翁の書や手紙などを大切に受け継いでいますが、そのことがきっかけとなり、本市（山田町）と潟上市との交流が始まりました。今後も翁の教えや、結んだ縁が後世に続いてほしいです。

㊤：坂元源兵衛
㊥：前田正名
㊦：石川理紀之助

# 劇団代表者が語る思い
# 今、伝えたいこと

## 1冊の絵本との出会い

私が、仲間たちと劇団を立ち上げるきっかけとなったのは、劇団の事務局でもある瀬之口ヤス子さんが制作した1冊の絵本との出会いでした。



「秋田からの爽風（かぜ）」というこの絵本には、明治35年、命も惜しまず遠く秋田県潟上（かたがみ）市から谷頭を訪れた理紀之助翁と7人の同志が、村人らに農業技術や人としての生き方などを教え、村を変えていく感動の物語が描かれていました。

さらに、理紀之助翁と正名翁、源兵衛翁とのつながりや、前田用水路が完成するまでの経緯を知るうちに、「その偉業や思いを、地域の人たちに知ってもらいたい」と思うようになり、平成23年10月、劇団を立ち上げました。

## 「サマイ物語」に込めたメッセージ

作品を通して、3つの事を皆さんに伝えたいと思っています。

一つ目は、源兵衛翁と正名翁が、米を作り豊かな村にしたいと、命も惜しまず私財を投じ借金まで背負って用水路を完成させたこと。

二つ目は、理紀之助翁が尊敬する正名翁に頼まれたとは言え、完全なボランティアで7人の同志と共に秋田からやって来て、わずか6カ月の滞在で、村人に働く楽しさや学ぶ喜びを目覚めさせ、劇的に村を変えたこと。

三つ目は、理紀之助翁が残した「寝ていて人を起こすことなかれ」と言う言葉の意味。「自分は何もせず人にさせてはいけない。人に先立ち自ら喜んで進んで行いなさい」と言う深い思いが込められている事を知ってほしいです。

3人の偉人たちの思いは、115年経った今でも色あせることなく、私たちに、人としての生き方を示してくれています。

## 広がり続ける交流の輪

現在、劇団では、市内の小・中学校などでの公演を重ね、3人の偉人たちの物語を伝えています。今後も、市内の全ての学校、そして、一人でも多くの市民の皆さんに見てもらうために、この伝承劇の公演活動を続けていきたいと思います。

そして、より多くの皆さんが一堂に観賞できるホールなどの大舞台で、公演ができたらとも思っています。

偉人たちの思いに触れ、忘れてはいけない大切なことに気付くきっかけになればと、これからも稽古を続けていきます。

◎プロフィル

山田のかかし笑劇団 代表

**岩邉（いわなべ） 八郎（はちろう）** （山田町山田・74歳）

静岡県富士市出身。10年前に山田町に移住。
前田用水路が完成するまでに至る、偉人たちの想像を絶する苦労と功績を知り、これからの未来の担い手となる若い世代への継承を目的に、平成23年、劇団を立ち上げ。以来代表として、市内各地での上演などに奔走。

# 互いが切磋琢磨 練習を重ね感動を呼ぶ

## 素人たちが踏み出した一歩

岩邉さんと瀬之口さんの思いに共感した人たちが集まり、平成23年10月に立ち上がった「山田のかかし笑劇団」。演じた経験のない人がほとんどでしたが、全員が情熱を持ち、「感動の物語を伝えたい」と思う気持ちを大切にしながら、日々、上演に向けて練習を重ねています。

大道具や小道具は全て手作りで、衣装なども団員らが持ち寄り縫い上げた特製の物ばかり。この他、劇団の活動そのものが理紀之助翁の生き方に倣い、脚本や演じ手、ナレーション、照明、音響などの全てがボランティアです。

劇団の練習は、一つ一つの場面で演技を止めず、全体を通して演じる本番さながらの方法です。休憩時にはお茶を飲みながら、立ち位置や発声など、それぞれが気付いた点を自由にアドバイス。時には、方言混じりの批評も飛び交い、いつも笑いに満ち溢れます。

こうした練習を重ね、プロの演出家のアドバイスなども受けながら、団員らの演技は次第に上達し、セリフも熱を帯びたものとなりました。

## 鳴り止まない拍手

3人の偉人たちの功績を描いた、劇団オリジナルの劇「サマイ物語」。信念を貫き通し、命懸けで偉業を成し遂げた偉人たちの人間像に迫ったこの物語は、ふるさとの歴史や偉人たちを知るだけでなく、団員らの熱のこもった演技の一つ一つが、観客の胸を打ちます。そして、劇の終演を迎えた会場は、鳴り止まない拍手に包まれるのです。

**インタビュー**

劇団のテーマソング
「秋田からの爽風」の作曲者

**山内 達哉さん**
バイオリニスト
みやこんじょ大使

絵本「秋田からの爽風」を読んで、理紀之助翁が遠い秋田の地から友人の願いに応えるために都城を訪れたことに感動し、また飛行機のない時代に理紀之介翁らが一歩一歩どのような思いで歩き続けたのか、思いを巡らせながら作曲しました。

理紀之助翁の考えや思いを、観客の心に届ける劇団の伝承活動は、本当に素晴らしいと感心しています。

私も数年前に、山田町の小・中学生や劇団の皆さんと「秋田からの爽風」を共演し、秋田でも公演しましたが、音楽を通して劇団の活動に参加できることを大変うれしく思っています。

# 子どもたちの琴線に触れる

## 未来の担い手たちにつなぐ

劇団が現在、特に力を入れて取り組んでいるのが、未来を担う子どもらへの伝承活動。平成29年11月末現在、市内3校の小・中学校で「サマイ物語」を上演。劇を通して子どもらへ偉人たちの偉業や思いを伝えています。

10月23日、大王小学校では、下学年と上学年の2回に分かれて、全校児童500人が劇を観賞。熱の入った演技や力を込めたせりふなど、当時の人たちの思いや苦労などを再現した劇に、真剣なまなざしで見入っていました。この日、上学年は、物語の時代背景や、登場人物が成し遂げたことを事前に学習していて、より学びを深めていました。

劇の終わりで「秋田からの爽風」を団員らと一緒に歌い、溢れんばかりの拍手で上演が終了。木下紗夜（さよ）さん（6年）は「物語が分かりやすく、見入ってしまった。都城の偉人について学ぶことができた」と話していました。

## 広がる伝承活動

庄内小学校の4学年では、参観日に親子で劇団の公演を観賞する授業を行っています。4学年は、社会科の授業で、前田用水路など地域の史跡や郷土の偉人についても学習していて、公演を通して、より学びを深めています。

観賞した児童からは「今まで何気なく通り過ぎていた史跡が、苦労して造られた大切なものであることが分かった」「地元の人の功績を学ぶ良いきっかけになった」などの意見が寄せられています。

劇の観賞後は、団員と一緒に「りきのすけカルタ」を使って学習。理紀之助翁が残した、教育や人づくりにまつわる数々の言葉が書かれたこのカルタを通して、楽しみながら理紀之助翁の教えや思いを学んでいます。

**インタビュー**

**世代を超えて劇団に参加している安藤さん**

**安藤 サヨ**さん、**聖**（あきら）さん（志比田町）

「以前、市民劇団に入っていたこともあり、劇団立ち上げの頃から参加しています。現在は、孫2人と共に参加し、伝承活動に取り組んでいます。孫と一緒に活動できることがとてもうれしく、小学校などでの公演も楽しみです」とほほ笑むサヨさん。

3カ　月前から劇団に参加し、スライドの上映などを担当する聖さんは「入ったばかりで覚えることが多く大変ですが、郷土の偉人たちの話や、劇団の皆さんとの交流はとても勉強になります。これからも、仕事と両立しながら、感動の物語を継承していきたいです」と力を込めていました。

# 理紀之助翁が結んだ縁

## 劇団が深めた地域間のつながり

劇団が力を入れているもう一つの取り組みが、秋田県潟上市との地域間交流。事務局の瀬之口さんが制作した絵本「秋田からの爽風」がきっかけとなり、平成22年より交流が続いています。劇団がつなぐ交流の輪は、民間から行政間交流へと広がり、現在では両市の小・中学生が互いに行き来する学校間交流も始まっています。

## 理紀之助翁のふるさとで受けたもてなし

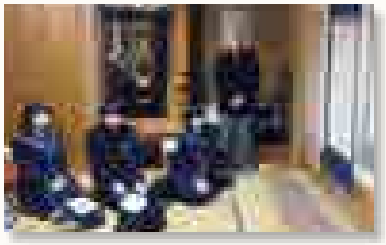
理紀之助翁が、7人の同志と共に山田町を訪れてから約110年の時を超え、平成26年2月、劇団員も潟上市を訪問。

団員らは、理紀之助翁の記念館や墓参りを行った後、市内の羽城（うじょう）中学校を訪れました。そこで、吹奏楽部の皆さんが、劇団のテーマ曲「秋田からの爽風」を演奏。思いがけないもてなしを受けた団員らは、感動のあまり涙を浮かべながら演奏を聴きました。

## 潟上市市民交流団の受け入れ

劇団が窓口となり始まった、潟上市と本市の子どもたちの交流が、盛んに行われています。平成28年1月には、潟上市の中学生と教員ら20人が山田町を訪問。団員と地域ボランティアが中心となり、地元食材を用いた郷土料理を振る舞ったり、理紀之助翁ゆかりの史跡を案内したりしました。

また、地元の小・中学生らとの交流会なども企画。秋田県の特産品や祭りなどの紹介映像を鑑賞し、方言を使ったクイズなどを楽しみ、交流を深めました。来年1月には、潟上市の小学生ら約30人も来訪。学校間交流が予定されています。



## 深まる地域間の絆

平成23年の新燃岳噴火の際には、秋田の皆さんから義援金が寄せられたり、同年開催された口蹄疫からの復興を願う「復興まつり」では、潟上市の民俗芸能「新開ささら」も披露されたりするなど、本市を勇気付けてくれました。

**インタビュー**

**佐々木 吉和さん**
（秋田県潟上市）

平成22年、瀬之口さんが制作した絵本「秋田からの爽風」が秋田に届きました。このことがきっかけで交流が始まり、以来、山田のかかし笑劇団の皆さんと笑いと涙の感動溢れる交流を続けています。

経済的には豊かになった現代ですが、本当の暮らしの豊かさや心の温かさを求めて地方に魅力を感じる人が増えています。そうした中で、私たちも理紀之助翁の教えに倣い、地域をいかに明るく、優しく、たくましく、美しくできるかを試みて、汗を流しています。これからも、潟上市と都城市共に魅力ある地域づくりを目指して、交流を深めていけたらと思います。

# 偉人たちの足跡を訪ねる

## 石川理紀之助翁像としまうつりの碑（山田町谷頭）

安永8年（1779）の桜島大噴火で、多くの人が避難し、移住した谷頭地区。その記録が少なく120年の歳月によって、人々の記憶が風化するのを憂いた理紀之助翁は、先祖への慰霊と感謝、将来に伝えるしるべとして「しまうつりの碑」の建立を提案。自ら先頭となって御池から石材を運び、明治35年に建立しました。

理紀之助翁の偉大な功績をたたえるため平成8年、しまうつりの碑の横に胸像を建立。台座には、翁の「寝ていて人を起こすことなかれ」の言葉が刻まれています。

## 前田君開渠紀功碑（山田町谷頭）

現在の豊かな田園風景の礎となった前田用水路。正名翁の没後、彼の功績や遺徳をしのんで、大正11年に建立されました。碑に刻まれた文字は、友人である東郷平八郎によるものです。

敷地内には「石川理紀之助翁夜学跡地の碑」も建立されています。

## 坂元源兵衛翁陶像（関之尾）

用水路と水田開発に生涯を捧げた源兵衛翁の陶像が、用水路の取水口のある関之尾の滝西側に建立されています。陶製で非常に珍しいこの像は、小松原地区の陶工に依頼されたものです。

## 劇を観覧した皆さんから寄せられたメッセージ

- 用水路造りの経緯や苦労、3人の素晴らしい功績がよく分かった。動画による説明と、シーンごとの説明も分かりやすかった。（40代・女性）
- 秋田からの大変な道のりを、なぜ理紀之助翁が歩いたのかよく分かった。都城と秋田を結んだこの素晴らしい絆を大切にしたい。（50代・女性）
- 先人の考え方や思いと、最後まで希望を持ち続ける意思の大切さに感動した。（70代・男性）
- これから、さまざまな場所で公演してほしい。あらゆる世代の人たちが観て、知って、感じてもらえたらうれしい。（30代・女性）
- この公演で得られた感動を、地域の人はもちろん、全国の皆さんに伝えたい。（70代・男性）
- 地元のことがもっと好きになった。（30代・女性）
- プロの役者より上手く、話がよく分かった。（70代・女性）

## ◎結びに

ボランティア活動にこだわる山田のかかし笑劇団。団員の皆さんは、慌ただしい日々の合間を縫って、感動の物語を上演するため練習を重ねています。

日ごろは笑い声の絶えない劇団ですが、劇を演じ始めると、団員らの表情は一変。「感動を伝えるためには、手抜きがあってはならない」と思わせるその鋭いまなざしは、偉人たちが困難を乗り越え、村人と向き合った真剣な行動に通じるものだと思います。

史実に基づき、偉人たちの思いや、人としての在り方を伝える劇団の伝承劇「サマイ物語」。現代の私たちが忘れかけた大切なことを気付かせてくれる作品です。

百聞は一見に如かず。上演中、幾度となく覚える感動を、皆さんにも、ぜひ、感じてもらいたいと思います。

## 問い合わせ

劇の観賞や劇団に参加したいなど詳しくは、事務局（瀬之口）まで問い合わせください。☎090-1164-2485

動画「サマイ物語」